

悪性脈絡膜上皮腫ノ急速轉移ノ一例

岡山醫學專門學校産婦人科

中川 武雄

悪性脈絡膜上皮腫ノ轉移ハ一般ニ早期ニ發現スルモノニシテ、嘗テ本邦ニ於テハ佐藤勤也氏ハ「ジンチ、オーム」ノ發現ニ因スル第一回出血後ヨリ臨牀的ニ腦轉移ヲ推定セシマデ三箇月間ヲ經過シ、其ノ子宮全剝出後ヨリ腦轉移ヲ推定マデノ期間ハ二十五日ナリシ一例ヲ報告シ、鶴岡氏ハ之ニ因スル第一回出血後ヨリ臨牀的ニ腦轉移ナリト推定スルニ至ルマデ三十七日ヲ經過シ其ノ子宮全剝出後ヨリ腦轉移ヲ推定マデノ期間ハ二十五日ナリシ一例ヲ報告セリ。泰西ノ文獻ヨリ見ルニハンネス氏ハ「ジンチ、オーム」ニ因スル第一回出血後ヨリ肺轉移ヲ推定マデノ期間ハ二百二十五日ニシテ、其ノ子宮全剝出術施行後肺轉移ヲ推定スルニ至ルマデノ期間ハ四十二日ナリシ一例ヲ報告シ、ボラノー氏ハ此ノ發現ニ因スル第一回出血後ヨリ腔轉移ヲ推定スルニ至ルマデ約一箇年ヲ經過シ、其ノ子宮全剝出術施行後ヨリ三箇月ヲ經テ腔轉移ヲ推定セル一例ヲ報告シ、コーン氏ハ子宮全剝出後ヨリ腔轉移ヲ推定マデ九週間ヲ要シタル一例ヲ報ゼリ。

次ニ余ガ曩ニ岡山縣病院産婦人科ニ於テ經驗シタル悪性脈絡膜上皮腫ノ腔壁竝ニ肺臟轉移ノ一例ハ比較的急速轉移ノ經過ヲ取リシモノナルヲ以テ其レガ病歴及ビ所見ノ概略ヲ記述シ以テ諸家ノ參考ニ資スルヲ得バ幸ナリトス。

患者

中村某、四十五歳、瓦焼職。

既往症。

遺傳的關係ニ於テ認ムベキモノナシ。患者ハ幼少ノ頃ヨリ健康ニシテ著患ヲ知ラズ。十六歳ニシテ月華初メテ開キ、最終月經ハ大正

九年四月末、三日間持續シテ異常ヲ認メズ。十九歳ニシテ健康ナル男子ト結婚シ共ニ花柳病ニ胃サレシコトナシ、初妊ハ二十三歳ニシテ分娩通常、大正七年ニ於テ第八回日妊娠八箇月ニテ早産シタル外流早産セシ事ナク兒ハ七人健在ス。今回ハ最終月經以來ノ妊娠ハ第九回日ニ相當ス。

中川—悪性脈絡膜上皮腫ノ急速轉移ノ一例

此妊娠經過中其ノ初期ニ於テ激シキ惡疽ヲ訴ヘ、九月十日頃ヨリハ少量宛ノ子宮出血ヲ持續シタルニ十月四日上圍ノ際突然血塊ヲ混セル大出血アリ、直チニ専門醫ノ診ヲ受ケ葡萄狀鬼胎ノ診斷ノ下ニ用手的摘出ヲ受ケタリト云フ。其ノ後出血ヲ見ザリシニ、十一月十日ニ至リ突然大量ノ子宮出血ヲ來セシト云フ。依テ十一月十四日持續セル子宮出血ナル主訴ヲ以テ當院ニ診テ乞ヘリ。

現症。 體格營養共ニ中等度ニシテ稍貧血セリ。胸部竝ニ腹部臟器ニ異常ヲ認メズ。

内診スルニ外子宮口一指通過ノ程度ニ開キ、分泌液ト共ニ少量ノ血液ノ混セルヲ見ル、子宮體部ハ後傾シ用手的ニ易ク整復シ得。大サ稍大、硬度稍軟。内診上特ニ注意ヲ拂ヒシハ左側子宮角ニ近ク觸レタル拇指頭大ノ腫瘤ナリ。次ニ消息子ヲ以テ子宮腔内觸診ヲ行ヒタルニ其ノ表面粗糙ナルヲ

認メタリ。附屬器ハ左右兩ニ異常ヲ認メズ。粘膜炎紫赤色ヲ呈ス。
診斷。 以上ノ所見ニヨリテ恐ラク葡萄狀鬼胎分娩後ニ續發セル惡性脈絡膜上皮腫ナラントノ診斷ノ下ニ手術ヲ行フコトニ決セリ。但シ手術前ニ於テ試驗的搔爬ノ結果ハ定型の惡性脈絡膜上皮腫ノ所見ハ陰性ナリキ。
手術。 十一月十九日原教授執刀手術施行。
先ツ「トロボコカイン」〇〇五腰椎麻醉ノ下ニ陰式子宮全別出術ヲ行フ。

別出子宮内面ヲ開見スルニ左側子宮角ノ部ニ約鳩卵大ノ腫瘤ヲ形成シ子宮筋肉層内ニ發育シ粘膜炎ハ僅ニ其ノ膨隆ヲ認ムルニ過ギズ。蓋シ試驗的搔爬術ニヨリテ得シ切片ニ於テ定型の所見ノ陰性ナリシハ故アリト謂フベシ
鏡檢所見。 該腫瘤部ヨリ得タル切片ヲ「ヘマトキシリン」「エオジン」ニテ染色シ、鏡檢スルニ亂雜ニ配列セルラングハンス氏細胞及「ジエンチウム」細胞ヲ容易ニ證明スルヲ得タリ。

術後經過。 術後三週間平滑ニ經過シ、何等ノ障碍ナク一次の治癒ヲ致セルニ當リ、尿道隆起部ノ直下ニ約帽針頭大ノ黒斑ヲ認メタリ。該部ヲ指頭ニテ觸ル、ニ容易ニ出血シ、黒斑ノ周圍ハ時日ノ經過ト共ニ發育シテ一ツノ結節ヲ形成セリ。其ノ表面滑澤ニシテ暗紫色ヲ誘見セリ。是ヨリ切片ヲ採リテ檢鏡スルニラングハンス細胞及「ジエンチウム」細胞ヲ容易ニ證明シテ惡性脈絡膜上皮腫ノ轉移ナル事ヲ確認セリ。

腔轉移ノ處置。 十二月二十三日(術後三十四日)原教授執刀ノモトニ過豌豆大ノ轉移竈ヲ可及的ニ廣大ニ切除セリ。然ルニ切除後轉移竈ハ益々増大スルノミナラズ前腔壁ノ中央部ニ於テ豌豆大結節二箇ヲ觸ル、ニ至リ今年一月十八日ヨリ是等ノ腔壁轉移ニ對シテ「ラヂウム」療法ヲ試ミタリ。即チ「ラヂウム」二十「ミリグラム」ヲ一日一至自二時間局所ニ貼用、二週間繼續シタルニ轉移竈ハ益々激烈ニ發育シ遂ニ極メテ脆キ暗褐色ナル潰爛ヲ生ズルニ至リ腐

敗臭強キ膿汁ヲ分泌シ且容易ニ出血スルニ至レリ。而シテコノ際兩側大陰唇ハ共ニ鵝卵大ニ水機肥大ヲ來セリ。

斯ノ如ク腔壁ニ顯著ナル變化ヲ來ス以前ニ於テ大正九年十二月二十四日朝少量ノ血痰ヲ喀出シ、其ノ後數日間引續キ同様ノ状態ヲ見タルモ他覺のニ兩側肺臟及ビ心臟部ニ於テ何等異狀ヲ見ザリキ、且本年一月十三日「レントゲン」照射ニヨルモ肺動脈硬變ヲ認めシ外異狀ナク、尙ホ血痰ヲ染色シテ結核菌、肺「チストマ」及ビ「ジンチ、ウム」所見ヲ有スル組織片ヲ探索スルコト數回ニ及ブト雖何レモ證明スルヲ得ザリキ。血痰喀出ハ一時止マリシモ一月九日以來再ビ少量ノ血痰ヲ毎日見ルニ至リシモ他覺的ニハ依然胸腹部ニ異常ヲ認めザリキ。然ルニ一月三十一日ニ俄然熱發三十八度三分、咳嗽頻發、呼吸困難及ビ胸痛ヲ訴へ、血痰ハ稍多量ヲ喀出シ、他覺的ニハ左肺後面下三分ノ二濁音ヲ呈シ中小水泡音及ビ捻髮音著明トナリ、尿中蛋白ヲ多量ニ證明シ、貧血ハ次第二其ノ度ヲ高メタリ。二月二日右側上肺葉ニ於テハ捻髮音著明トナル。斯ル状態ニテ二月十一日ニ至リ高度ノ惡液質及ビ甚シキ呼吸障礙ノモトニ大量ノ子宮出血ヲ來シ遂ニ鬼籍ニ入ル。

以上ノ症狀ハ肺結核ノ併發ヲ疑ハシムルト雖喀痰中結核菌ヲ證明スルコトヲ得ズ、且加フルニ約三週間前ニハ兩肺共ニ全ク異狀ヲ認めズ、且熱型ハ極メテ不定ニシテ肺結核ノ其レトハ全ク異レリ。尙ホ偶發セル急性肺炎ヲ疑ハシムルト雖喀痰ノ性狀ハ寧ロ純血塊様ニシテ肺炎ノ其レトハ全ク異レリ。因テ本患者ハ惡性脈絡膜上皮腫ノ肺轉移竝ニ腔轉移タルコト少シモ疑ヲ容レズ。

本例ニ於テ腔轉移ヲ確認シタル時期ハ子宮出血後三十日、子宮全剔出後僅ニ三週間ヲ經過セシモノニシテ、肺轉移ヲ證明シタル時期ハ子宮出血後四十五日、子宮全剔出後五週間ヲ經過セシモノニシテ比較的急速ナル轉移ヲ來セル惡性脈絡膜上皮腫ノ一例ナリトス。

擱筆スルニ當リ懇篤ナル御指導ヲ受ケタル原教授ニ對シテ深謝ノ意ヲ表ス。(大正一〇、一二、六)